



2019

Free The Children Japan Annual report

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 2019 年度年次報告書



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に WE Free The Children
認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

Our Story

1995年、カナダに住む12歳のクレイグは学校に行く前にマンガを読もうと新聞を手にしたところ、ある記事に目が留まりました。

「児童労働の廃絶を訴えていた12歳のパキスタン少年、射殺！」

～パキスタン人のイクバル・マシーは、とても貧しい家庭の出身で4歳のとき、両親から引き離され絨毯工場に売られてしまった。1日10時間以上の労働を強いられていたが、工場から脱出できNGOの助けて児童労働反対を訴える活動家として世界を回っていたが、母国に戻った時何者かに殺害された。～

クレイグは、同い年のイクバルの死や、世界に奴隷のように働かされている子どもがいることにショックを受け、同じ子どもの問題なら、自分たち子どもでも取組もうと「Free The Children (FTC)」を設立しました。

その後クレイグは実際に児童労働の現状を学ぶため中学1年生になると南アジア5カ国をまわる50日間の旅に出ました。そこで、マザーテレサやノーベル平和賞を受賞したカイラシュ氏に出会いました。

そして、クレイグの想像をはるかに超える過酷な環境で働くたくさん子どもたちのことを世界に伝えるため、カナダに帰国後、旅の体験記を本にまとめたりスピーチをして世界をまわるようになりました。

現在、FTCはカイラシュ氏、マララ氏をはじめ多くの著名人と共に、全ての子どもが教育を受けられるように一緒に活動しています。フリー・ザ・チルドレンの活動は世界的に認められ、創設者のクレイグは今まで3回ノーベル平和賞にノミネートされています。

1997年、アメリカのNGOに所属していた中島早苗（現代表）がFTCとクレイグの活動を知り団体の理念に賛同し日本を紹介しようと、帰国後1999年に日本支部を設立しました。以後、日本の子どもたちが活動に参加するようになり、現在1,500人以上の子どもたちがメンバーとなって国際協力や国内の子どもを巡る課題に取り組んでいます。その活動は様々で、児童労働を伝えるためにウォークを企画し実施する子どもたち、開発途上国の働く子どもの状況を学び、支援するため手作り雑貨やお菓子を販売しその売り上げを世界の子どもの教育事業に寄付をしたり、世界の貧困問題を伝える動画を作って配信したり、支援先を訪問する海外ボランティアツアーに参加したり、いじめの問題に取り組みスピーチをして子どもの権利について訴えたり、自分の特技を活かして社会問題を解決するためのアクションを起こしています。



Our Vision

世界中のすべての人々が【誰一人取り残されることなく】社会に参加し、国籍・宗教・年齢・性別・障害の有無・文化に関係なく、違いや個性が尊重され、互いに勇気づける多様性のある社会。

Our Mission

上記のビジョンを達成するために、子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考えていることから

ふたつの「Free」を目指します。

1

国内外の貧困や差別から
子どもをFreeに（解放）する。



2

「子どもには世界を変えられない」
という考えから、
子どもをFreeに（解放）する。



A note from Chairperson of the Board

代表挨拶

2019年は、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが設立20年目を迎えた節目の年でした。また、子どもの権利条約が国連で採択されて（作られて）ちょうど30年、日本政府が批准して（同意して）25年の年でもありました。世界では2000年以降、南アジアをはじめとして多くの地域では教育環境が改善し、小学校に通えない子どもの数は5900万人に減少し、20年前は2億4600万人と言われていた世界の児童労働者数も、現在は1億5200万人と大きく減少しました。20年間の活動を通じて実感していることは、多様な価値観に触れたり、より良い世界に向けて考え行動したりする日本の子どもや若者が増えたということです。

他方、気候変動や経済格差が地球規模で深刻さを増し、戦争や迫害などから逃れた難民・避難民は世界中で7000万人を超え、国連が統計を取り始めてから最多となりました。日本青少年研究所による調査では、68.3%の日本の高校生が「自分が参加しても社会は変わらない」と考えており、近年10代以下の日本の子どもの自殺率は各年代の中で唯一増加傾向にあり、国内外の子どもを巡る状況は、依然として厳しいと言わざるを得ません。

改善がみられる社会課題はあるものの未だに世界の厳しい状況を見ると、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとしては、子ども自身が持続可能な社会の担い手となるよう20年の歩みで培った経験や知識を活かしてより多くの子どもをエンパワーし、子どもが声をあげられる社会づくりにより一層注力することが使命であると確認し、2020年3月20日に、日本初のWE Dayを東京で開催することを掲げて具体的な準備を行ったことが2019年度の大きな取り組みとなりました。

その他の今年度のハイライトとしては、国連子どもの権利条約30年を機に、子どもの尊厳や権利が守られているとはいえない現状に取り組むために、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」を実行委員として複数のNGOとともに展開し、子どもの権利条約の土台となっている「すべての子どもは生まれたときから1人の人間として尊重されるべき尊い存在である」という理念を伝える取り組みを様々な行いました。

国際協力事業としては、フィリピンのミンダナオ島の先住民の村の学校修繕事業のためにクラウドファンディングをユースチームが中心となって行い、目標金額を達成できたことで2020年から建設工事に着手します。また、インドのラジャスタン州の少数民族の村での小学校建設が完成したために、寄付者の桃山学院高校の先生方と共に現地訪問をしたり、2000年から支援を行っている西ベンガル州の支援事業地域を訪問したりできました。その他、ウェブサイトのデザインを一新し、11月にオープンし、国内のキャンプや継続的な寄付者（サポーター）を獲得するための動画をクリエイターの達富航平さんに制作ご協力頂きネットやSNSを通じてアピールしました。

改めて、活動にご協力くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。特に、新事業WE Dayの開催に向けて多くの方々に様々なご協力をいただき、本当に嬉しく励まされました。小さな団体で大きな試みのWE Dayを開催することはかなり難しいと考えていましたが、たくさんの方々からご支援やご協力を頂き感謝の言葉しかありません。「子どもには世界を変えられる」というモットーを伝え、社会貢献のうねりをつくるために、今後も引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

代表理事 中島早苗

TABLE of CONTENTS

もくじ

2	フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは		
4	A LOOK BACK AT 2019	10	自立支援事業
	— 2019年度を振り返る	13	WE Day
5	子ども主体事業・子ども活動応援事業	14	会計報告
9	アドボカシー事業	15	ご支援・ご協力いただいたみなさま・メディア掲載

A LOOK BACK AT 2019

たくさんの方々のご支援によって、国内外の子どもたちへの支援を行うことができました。みなさまからの温かいご支援、心より感謝申し上げます。

Members

新規メンバー登録数：
238人

メンバー合計：2,232人
(2019年12月末)



好きなこと×国際協力。

自分の好きなことや特技を活かして、全国でメンバーが活動しました。



Take Action Camp

テイク・アクション・キャンプ in カナダ

実施日時 7/28-8/12 受益者数 10人 実施場所 カナダ

子どもや若者を対象にした合宿型リーダーシップトレーニング・プログラム「テイク・アクション・キャンプ」。子ども達自身が、「子どもには世界は変えられない」という考えから脱し、子どもや若者が社会問題や国際協力活動に取り組むためのやる気とスキルを習得できるようなプログラムです。

7/28～8/12にトロントで実施している Take Action Camp に日本の子どもや若者が参加できるよう企画運営を行っています。前半1週間を、カナダのトロントにある語学学校（EF）で英語の勉強をし、後半1週間は、フリー・ザ・チルドレン（WE）の社会問題×リーダーシップキャンプ（Take Action Camp Ontario）に参加。日本からは高校生10名が参加しました。前半の語学学校では、文法やスピーキング・リスニング、映画を見て表現を学んだり様々な形の授業を受け、授業後には買い物やご飯にでかけたりしました。

後半は、いよいよテイク・アクション・キャンプに参加。60人以上のカナダ・アメリカ人の参加者・スタッフと合流。自分自身を振り返るワークショップを行ったり、チームのみんなでダンスを作ったり、年齢関係なく、性別に分かれてチームワークを競い合う活動では、とにかく走って走って、頭も使って、大騒ぎしながらも、みるみるうちに、さっきまでは”知らない人”だった人が大好きな友達になっていっていました。

なかなか英語でディスカッションをするのは大変ですが、それぞれ、試行錯誤しながら、自分の考えを伝えるべく努力しています。キャンプの最後には、自分自身が興味のある社会問題に対してアクションを考え発表しました。



参加者の声

グローバルチャレンジプログラムに参加して、社会問題への意識が変わり、人生が豊かになり視野が広がりました。海外での生活について、そして日本についても違う視点から知ることが出来ました。もちろん英語力も伸びたし自分の交友関係も広がりました。英語を使う時はもちろんですが、それに加えて自分はキャンプに参加してやり切ったという自分への自信にも繋がっていると思います。性格も変わったと思うし話題も増えました。（参加当時 高校1年生）

テイク・アクション・キャンプ in ジャパン

助成協力：子どもゆめ基金、三菱 UFJ 国際財団、日本労働組合総連合会 愛のかんぱ

実施日時 春 5/3-5/5 受益者数 52人 実施場所 春 千葉県水郷小見川少年自然の家
夏 8/21-8/25 (＋大学生 23人) 夏 国立中央青少年交流の家

日本にいる子どもや若者が社会問題を知り、その解決に向けて自らがアクションを起こし、より良い世界のために活動するためのノウハウを学ぶ合宿型ワークショップ（Take Action Camp Japan）を実施しました。

春は水郷小見川少年自然の家にて初開催し、夏はゲストスピーカーとして元子ども兵士のミシェル・チクワニネを招致自身の経験をスピーチしました。春は2泊3日、夏は4泊5日で実施しました。



参加者の声

- ・この5日間でこんなにも自分自身が変えられるとは思いませんでした。参加する前から社会問題に興味はありましたが、キャンプを終えて興味をもっと持つことが出来たし、自分たちの力で世界を変えたいと強く思うことが出来ました。本当に良い経験となりました。参加して良かったです。
- ・自分は社会問題に対してできることがないと思っていました。しかしそうではない事、そして、私より小さな子たちがそれらに対してできることはないか真剣に考えていることを知り、自分も負けていられないな、と思いました。

Youth empowerment

子どもたちのやってみようという気持ちを引き出し、社会問題を解決するために行動する子どもたちの育成やサポートをしています。

チーム活動

実施日時

通年

受益者数

97人

実施場所

主に事務所

活動チームに所属する子どもメンバーに、グループの運営・企画サポートを実施しました。

【活動チーム】

フィリピン and チョコプロチーム 19人 / 商品開発チーム 30人 / WE Day ユースアンバサダー 32人 / クラウドファンディングチーム 16人



フィリピン and チョコプロチーム チョコ販売の様子



クラウドファンディングチーム
イベントで募金をよびかけました。

参加者の声

今回、このプロジェクトを通して感じたこととしては、かなり大変で、責任が重かったと言うのがあります。その反面、フィリピンの小学校のために皆さんから支援いただけたことにとっても感動しました。皆さんから支援いただいたお金を、自分たちが責任を持って、フィリピンの子どもたちの未来のために届けていきたいと感じました。また、みんなが一丸になれば成功しないプロジェクトだと感じました。私にとって、クラウドファンディングは初めての経験でありながらもとても貴重な経験になり、このプロジェクトに携われてとても光栄に思います。(クラウドファンディングチーム 参加当時大学1年生)

メンバー活動サポート

実施日時

通年

受益者数

全国のメンバー 1,500人

実施場所

主に事務所

メンバー登録をした子ども達へイベントや活動の情報を定期的にしつたり、電話やメール、オフィスでの対応を通じて子どもメンバーが主体的に活動できるようサポート、ウェルカムデーを毎月2回開催しました。1月には同窓会イベント WeunionDay2019 を実施し、全国のメンバーが集う機会となりました。また、学校や地域のグループ活動のサポートを行いました。



Study tour

スタディーツアー

春・夏休みに観光ツアーでは知ることの出来ないような現地の方々の生活を体験し、日本の生活が当たり前ではないという世界の現実を体感するスタディーツアーを行っています。現地ではボランティアや現地の人々・子どもたちとの交流だけでなく、学びを深めるディスカッションやワークショップも実施しています。

フィリピンスタディーツアー

実施日時 2月、4月 受益者数 27人 実施場所 フィリピン

日本の子どもや若者などが、FTCJが支援するフィリピンの事業地や歴史的地域を訪問し、行政や民間の働きを見学したり、子どもや地域の人々との交流やボランティアを通じて、現地の状況を多角的に学び、国際協力として自身には何ができるかを考える機会を提供しました。今年度はノートルダム女学院高校のオリジナルグループツアーも実施しました。

- DAY1 成田発→フィリピンマニラ着→オロンガポへ車で移動→フレダ基金(現地 NGO)ゲストハウス
- DAY2 フレダ基金やフェアトレードについて、先住民族(アエタ族)コミュニティ訪問・交流、ホームステイ
- DAY3 先住民族コミュニティにて交流、虐待から救出された少女保護施設訪問
- DAY4 フェアトレード生産者訪問、刑務所や路上から救出された少年保護施設訪問・交流
- DAY5 マニラへ車で移動、国立盲学校訪問、マニラでショッピング
- DAY6 マニラ観光、スラム地域訪問・子どもたちと交流
- DAY7 自由時間、午後フィリピン出発→成田着



参加者の声

今までフェアトレードについて調べている時も遠い国の話やなって思っていたけど、実際に現地に行って NGOの方とかマンゴー農家さんから話を聞くことが出来て身近になった気がします！あと、自分たちのやっていることは今はあまり意味が無いかもしれないけど、すごく大切なことでそれを共に考えている仲間がいることを知って励みになりました。将来についてもばやとしていたのがやっぱり自分は発展途上国の支援に興味があるんだということを実感出来たのでそういう仕事に就けるようにいまから勉強を頑張ろうと思いました。

ケニアスタディーツアー

実施日時 8/7-16 受益者数 11人 実施場所 ナロク群(ナイロビ)

ケニアの支援先のナロク群のコミュニティを訪問し、農村自立支援の様子を学び、村の人々が行っている水運びの体験やビーズアクセサリー作りなどの文化体験、小学校の教員寮の建設ボランティア等を行いました。また、サファリツアーやグレートリフトバレーなどの観光、ナイロビで活動する日本人をゲストスピーカーに迎え話を聞くなど、多角的にケニアを知り・体感し・考えるツアーとなりました。

- DAY1・2 成田仁川・アディスアバ(経由しナイロビ)へチャーターでコミュニティへ キャンプ地でオリエンテーション
- DAY3 スピリリッスン、先生寮の建設ボランティア、リーダーシップワークショップ、(自や仲間のチャレンジを知る)ケニアについてのレクチャー
- DAY4 ローカルマーケットでの買い物ワーク、先生寮の建設ボランティア、マサイのレクチャー
- DAY5 Oleleshwa 農園、Baraka 病院、Kisaruni 女子高訪問
- DAY6 サファリツアー、マサイの武器トレーニング、リーダーシップワークショップ、タレントショー
- DAY7 マサイマのビーズトレーニング、ショッピング、ヨガレッスン、現地に住む人のお家訪問、水運び体験
- DAY7 マサイの薬草ツアー、グレートバリアリーフ観光、リーダーシップワークショップ
- DAY8 ゲストスピーチ(アクセプトインターナショナル)、アディスアバ・仁川を由し成田へ



参加者の声

開発上国にやりたいと思っていましたが、体的に何がしたいのかがからず走っていました。しかしこのツアーで、と同代の若者たちをいたいという、ひとつ大きな目的ができました。そして、それを決めるためにどうすべきか、体的なアクションプランをえる時間がえたとします。えるだけでわかってしまっていた自から、行動にすることに重点をけるようになったと思います。ケニアでしたボランティアは、これからの活動に大きなヒントをえてくれました。行き詰った時は、この日のことを思い、をれないようにんでいきたいと思ひます。(参加当時 高校2年生)

Net Working

様々なセクター、組織と連携・協働しネットワークを構築することで、FTCJ のビジョン、ゴールを実現することを目指しています。

JNNE/ 世界中の子どもに教育をキャンペーン

実施日時

4月～8月

受益者数

49,340人

実施場所

全国、主に東京

4月13日～6月30日にかけて、途上国の教育の現状や教育援助の不足について学ぶ授業が国内外で実施され、11か国、(鳥取を除く)46都道府県・の622校・グループ、49,294人が参加しました。

5月15日、衆議院第二議員会館で、10回目となる「中学生による国会議員のための「世界一大きな授業」を開催。当団体メンバーを含む中学生8名が「先生」、国会議員20名が「生徒」となり、途上国の子どもの教育をテーマに授業を行い、JNNEからはNGOの提言などを伝えました。

8月6日、JNNEのメンバーと上記の中学生が外務省を訪問、松浦国際協力局審議官・NGO大使と面会し、全国の「世界一大きな授業2019」参加者から寄せられた「首相・外務大臣への手紙」約4,000通を手渡し、「途上国の子どもたちへの教育援助額を更に増額してください」と伝えました。



CL ネット (児童労働ネットワーク)

実施日時

5月～7月、12月

受益者数

723,654人

実施場所

全国、主に東京

4月27日～6月16日にかけて「ストップ!児童労働キャンペーン2019」を開催。情報発信はFacebookやTwitter等のSNSを中心に行った。また、レッドカードを掲げて写真を撮影し、同時にアクションを表明する「レッドカード+1アクション」と名称を変え参加を呼びかけ、1540枚の写真がTwitter、Facebook、Instagram等のSNSを通して日本全国から投稿がありました。

2018年2月から2019年6月まで日本政府へ児童労働問題に対する取り組み強化を要請するため、ストップ!児童労働50万人署名～児童労働のない、2020東京オリンピック・パラリンピックに～を実施。72万2,114筆が集まりました。

児童労働問題解決に向け、政府・企業・市民社会がどのように取り組むべきか検討するため研究会を実施。2019年は、ビジネスと人権指導原則の国別行動計画(NAP)策定と、TICAD7(第7回アフリカ開発会議)、SDGsハイレベル政治フォーラムへ参加しました。



CRC ネット (広げよう!子どもの権利条約キャンペーン)

実施日時

4月～12月

受益者数

800人

実施場所

全国

国連子どもの権利条約制定30年の節目の年として、あらゆる暴力から子どもを守り、子どもが声をあげられる社会の実現に向け、複数のNGOでネットワークを設立。FTCJは実行委員として参加しています。賛同団体は全国に100団体以上ある。子どもの権利に関する政策提言活動や、権利を学び活かすためのフォーラムを開催、FTCJ子どもメンバーが参加しリレートークを行いました。

フェアトレードタウン世田谷推進委員会

実施日時

通年

受益者数

10,000人

実施場所

世田谷区

世田谷をフェアトレードタウンとして認定されるよう世田谷区民及び世田谷区にある団体など組織で構成しネットワークを構築。セミナーや勉強会、啓発活動、世田谷区のイベントへの出展などに取り組みました。

Speaker and Workshop

出張授業・講演会・ファシリテーター養成プログラム

全国の学校や企業、イベントなどへファシリテーターを派遣し、生徒などの参加者の方々が社会問題を身近に感じ「自分は無力だ」という考えを捨て、「自分にもできる」という自分の可能性に気づくことのできるプログラムを提供しました。また、出張授業に同行するファシリテーターの育成にも取り組みました。

助成協力：日本郵便株式会社 年賀寄付分配事業金

実施日時

1月～12月

受益者数

12,249人

実施場所

全国92回、75カ所訪問

PICK UP

WE Schools 年間プログラム 小金井第三小学校

2019年4月より、東京都小金井市立第三小学校の6年生に向けて、WE Schoolsの教育プログラムを実施中です。

WE Schoolsは、単発の出前授業から発展し、数か月～1年間かけて実施する教育プログラムです。

児童は、国内外にある社会問題を知り、それらの社会問題が自分と関係していることに気づき、子どもでも社会問題に向き合い、解決に向けた変化を起こしていきます。

＊WE Schoolsの4つのステップ＊

- 1 取り組みたい社会課題を精査し理解を深める
- 2 目標を決めてアクションの計画を立てる
- 3 実際にアクションを起こす
- 4 アクションをふり返り、報告・お祝いをする

小金井第三小学校では、この4つのステップに則り、年間プログラムの設計と授業やワークシートの提供、そして3回授業を実施させていただきました。夏休みに個人でアクションをおこすこと、2学期後半にグループごとにアクションを起こすというのが特徴的なプログラム設計になっています。



FTCJ 担当授業 1回目：5月 場づくりとして

SDGsの理解や、1年間プログラムを進めていくにあたっての場づくりなどを実施しました。ゲーム形式で学習を進めていくので、6年生の子ども達は大盛り上がりです。その中でもしっかり振り返りと、ワークシートを記入する時間も設け、今後の学習にしっかり繋げていくことも重要な回となります。6年生の子ども達は、シャイな子もいますが、とっても積極的で、問いかけをする数十人が毎手を挙げて発言してくれます。1つ1つの意見に対し、耳を傾け、拍手をして、受容する場を作り上げていきます。次回の7月の2回目の授業では、夏休みにどのようなアクションを起こすかの導入の内容を行うので、5、6月を使って、社会問題の調べ学習に入りました。



FTCJ 担当授業 2回目：7月 アクションの種類への理解、アクションの作り方

アクションを起こす、となったときに、自分ならどのようなアクションを起こすでしょうか。多くの場合、今までの経験や得た知識をベースにアレンジするという形になると思います。けれども、アクションには大きく6つの種類があります。その分類を知ること、子ども達のアイデアや発想は爆発的に広がります。自分たちのアクションを作りこむ前に、学年のみんな、アクションの種類、アイデアをとにかく出まくるワークショップを3つ実施しました。壁一面にアクションのアイデアが貼られ、自信にもつながり、夏の個人アクションへとつなげていきました。

FTCJ 授業 3回目：10月 チームビルディング

夏休みに個人でアクションを起こした子ども達。楽しくできた子もいれば、正直しんどかったという子もいたり様々な様子。それらの反省を活かしながらも、2学期の後半は、グループでアクションを起こす形になります。グループでアクションを起こすことは、達成感ややりきった感覚、成果の規模も大きく変わってきます。そのアクションを成功させるためには、仲間のことを深く理解し、結束力を高めることがとても重要です。その力を高めるため、社会問題に向けたチームビルディングのワークを3つ行いました。話し合いの中で、それぞれの価値観、強み、弱みの理解、目的を一致させる大切さ、そして仲間と一緒にワークを達成した体験で一気チーム力を高めることができます。次回から、メンバーでアイデアを出して、アクションを起こしていきます。3学期はそのまとめと、公開授業で発表会を行う予定です。今から彼らの成果がとても楽しみです。

▶小学校：6カ所 立川市立上砂川小学校、小金井市立小金井第三小学校、羽村市立武蔵野小学校、板橋区立大谷口小学校、小金井第三小学校、小平第九小学校

▶中学校：11カ所

お茶の水女子大学附属中学校、関東学院六浦中学校、仙台市立上杉山中学校、平楽中学校、横浜市立大綱中学校、聖学院中学校、町田市立真光寺中学校、小金井市立小金井第二中学校、田島中学校、大河原中学校、板橋区立赤塚第一中学校

▶中学・高等学校：1カ所 ぐんま国際アカデミー

▶高等学校：21カ所 立命館守山高校、郁文館高校、西宮市立西宮高校、東京大学付属高校、アレセア湘南高校、工学院高校、大泉校高校、神奈川県立城山高校、神奈川県立藤沢総合高等学校、栃木県立益子芳星高等学校、神奈川県立有馬高等学校、横浜サレジオ学院高等学校、大泉校高等学校、桜丘高等学校、名古屋市立北高等学校、鳥取城北高等学校、横浜高等学校、カリタス高等学校、和歌山県立星林高等学校、滋賀県立草津東高等学校、兵庫県立武庫荘総合高等学校

▶大学・専門学校：9件

桐蔭横浜大学、神戸女学院大学、上智大学、神奈川大学、桐蔭横浜大学、白百合大学、明治学院大学、大東文化大学、大阪 YMCA 国際専門学校

▶その他団体、イベント：27件

EF グローバルセミナー、世田谷区立 PTA 連合会、世田谷区フィンランド派遣説明会、鳥取まちなか教育会、世界食料デー月間イベント、東京都人権センター主催 WS、DayBreak、三菱鉱石輸送(株)、ソーシャルスタンド #76 (ミシェル来日講演)、ロータリーイベント、Wake Up Japan イベント、アムネスティ鎌倉イベント、アムネスティ神奈川イベント、キャンプ保護者説明会、ミシェル来日講演、ジュネスジャパンサファイアミーティング、世田谷区シンポジウム、世田谷メッセ、子どもの権利条約フォーラム、TEDX TOKYO、シーライツイベント、東村山公民館、Jeunesse gala event、NPO・NGO 草莽の集い、ワンフェス for Youth ワークショップ、Yokohama Student Forum、ワンワールドフェスティバル

Public relations and Events

イベント出店・物販・広報・資料開発

グローバルフェスタやワン・ワールド・フェスティバルなどに出品し、団体紹介や世界の子どもたちの現状を伝えるパネル展示、フェアトレード商品の販売を行いました。イベントではメンバーだけでなく、たくさんのボランティアさんに支えられブースの運営をすることができました。

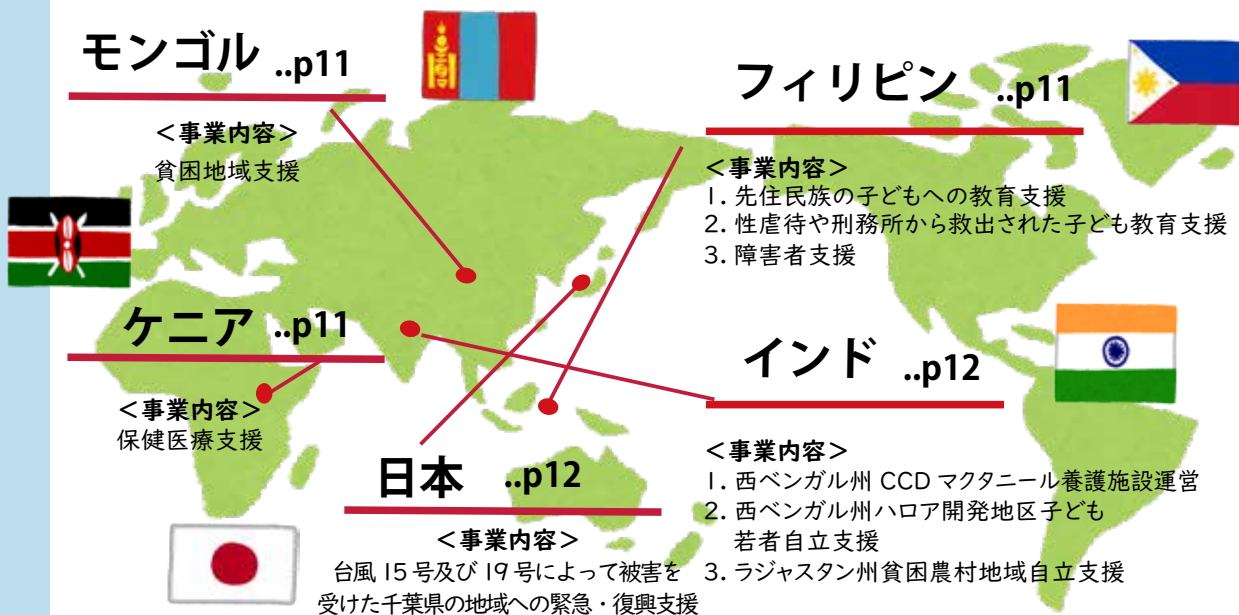
◇発行広報資料：2018年度年次報告書、ニュースレター年3回、アニュアルレポート1回700部発行。

◇メールマガジン月2回発行、登録者約5,000人。◇WEBページは随時更新、1日平均658アクセス。

International programming

事業実施国一覧

貧困などが原因で権利を奪われ困っている開発途上国の子ども（特に、支援地域のフィリピン、インド、ケニアなど）の権利が守られ教育を受けられ自立できるよう支援しています。内容：フィリピン、インド、ケニアなどの開発途上国の子どもが貧困から解放され自立できるよう包括的な支援事業を実施しています。



Kenya

ケニア

実施日時

通年

受益者数

1,200人

実施場所

ケニアナロック群南ナロック県バラカ病院及びエシノニ村

ケニア・保健医療支援

「東京グレートサンタラン」等のご寄付を通じて支援対象のケニアナロック群南ナロック県のマサイ民族やキクユ民族が主な患者として治療を行うバラカ病院及び、エシノニ村へのモバイルクリニックにおいて、子どもや妊産婦への健康向上・維持のための保健医療支援を行ないました。



Mongolia

モンゴル

実施日時

9月-12月

受益者数

550人の幼児、子ども

実施場所

モンゴル首都及びその他の地域

貧困地域支援

F.O. インターナショナル様からの支援物資 3001 着の子ども服をモンゴルの貧困家庭へ配布しました。
現地パートナー団体：Rotary Club of Khangarid, Mongolia
配布先：・ダルハン・オール県、アルハンガイ県、ウランバートル市、その他



Philippines

フィリピン

先住民族の子どもへの教育支援

実施日時

通年

受益者数

60人

実施場所

フィリピン

手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集った資金とチョコプロの収益、その他寄付にてミンダナオ島の先住民族のキバラトン村に暮らす子どもたちが通う老朽化した幼稚園及び小学校の校舎を修繕するなどし教育環境を整える支援事業を実施しました。



性虐待や刑務所から救出された子ども教育支援

実施日時

通年

受益者数

子ども約200人
アエタ民族100人

実施場所

フィリピン

指定寄付やフェアトレード商品の収益によって、フィリピン・ルソン島サンバレス州オロンガポに位置する現地パートナー NGO プレダ基金を通して、性的虐待・搾取を受けた少女や、路上や刑務所から救出された少年への教育、アエタ民族コミュニティへの自立支援活動を実施しました。



障害者支援

実施日時

6月から10月

受益者数

—

実施場所

フィリピン

ナガ市やマニラ市における障害のある子ども若者が教育を受けられるよう環境を整えるための支援事業を実施するための調査を行いました。

India

インド

マクタニール養護施設運営支援

実施日時

通年

受益者数

マクタニール養護施設で生活する 22 人
貧困家庭の子ども 10 人

実施場所

インド

助成：大阪コミュニティ財団

手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集った資金や助成金、その他寄付を使って、現地パートナー団体 CCD を通じて、路上や児童労働などから救出され施設で生活する子どもと貧困家庭で暮らす子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らせるよう事業をおこないました。具体的には支援対象者の子どもが学校に通うために必要な教育費（制服や教材文房具、ワークショップ教材費）や、食費の提供、健康医療支援プログラムのために支援金を活用した。また、施設では美術や体育などの情操教育を通し、より豊かな心身の発達を育てています。



ハロア開発地区子ども・若者自立支援

実施日時

通年

受益者数

西ベンガル州ハロア開発地区の
子ども若者約 80 人

実施場所

インド

助成：大阪コミュニティ財団

西ベンガル州ハロア開発地区に暮らす貧困家庭の子どもや若者に対して、自立できるような収入向上のための職業訓練セミナーを提供し教育支援を実施。また、虐待や児童婚などの課題から子どもを守るために、子どもの権利を伝える子ども若者グループを育成し、地域の子ども及びおとなが権利についての知識を得られるようアドボカシー活動を実施しました。



ラジャスタン州貧困農村地域 自立支援

実施日時

通年

受益者数

カルタナ村の人々 1,000 人

実施場所

インド

ラジャスタン州ラジサマンド地方農村地域では、降雨量が少なく半乾燥地帯のため、またインフラ整備も進んでいないため、農作物の収穫が伸びず、村人は現金収入が少なく貧困から脱却が難しい状況にあるため。現地パートナー WE Charity を通じて人々が貧困から抜け出し自立できるよう 5 つの柱（教育、水、保健衛生、生計維持、食糧農業）をたてて包括的に支援を行いました。



Japan

日本

実施日時

9月 - 12月

受益者数

500 人

実施場所

千葉県

台風 15 号及び 19 号によって被害を受けた千葉県の地域への緊急・復興支援

2019 年秋に襲った台風 15 号及び 19 号によって被災した千葉県内の地域に対して、炊き出しや生活物資の提供、その他清掃活動、情報提供などをおこないました。FTCJ 理事で千葉県在住の永野恵理が運営するカフェを拠点に指揮を執り様々なグループと連携しながら実施しました。

WE Day JPN

2007年にカナダ・トロントにて始まった子どもや若者の中で自主的な社会貢献活動を根付かせるためのライブイベント WE Day の日本版を2020年3月に開催するため事業を実施しました。

WE Day 概要

- 【コンセプト】誰かのためにアクションを起こした子どもや若者を祝い、
エンパワーする世界的ライブ・イベント
- 【イベント名】WE Day Community: Japan 2020
- 【日時】2020年3月20日(金・祝) 午前及び午後
- 【会場】LINE CUBE SHIBUYA(渋谷公会堂)
- 【対象】SDGsの目標として掲げられている国内外の社会課題解決に向けて、
ボランティア活動など何らかのアクションを起こした25歳以下の
子どもや若者1,700人(小学生、中学生、高校生、大学生・院生など)

【目的】

1. 参加者の子どもや若者が、多様な立場に置かれる人々や異なる価値観を理解し、
一人ひとりが尊重されることの大切さを感じ、彼らの自己肯定感を高める。
2. 参加者の子どもや若者が、SDGsに紐づく国内外にある社会問題を知り、
それらの問題と自分自身が繋がっていることに気づき、自分ができることを考え、
行動できる素地を養えるようにする。
3. 参加者の子どもや若者が、自分が動くことでより良い変化を起こせると感じ、
彼らの自己効力感を高める。

【参加費】無料

- 【プログラム】社会課題を解決するためのアクションを起こした子どもや若者を祝い、
エンパワーメントする内容を予定

- ・社会活動家・著名人などによるスピーチ、パフォーマンス
- ・子どもや若者によるアクションによるインパクト(成果)の発表
- ・子どもや若者活動家(参加者)によるスピーチ、パフォーマンス



WE Day Japan

実施日時

通年

受益者数

約2,000人

実施場所

東京

2020年3月20日に渋谷公会堂にて日本初のWE Dayを開催するための準備やアドボカシー活動。OSAKAあかるクラブや電通のアドバイスや事務局としてイベント業務のプロフェッショナル(株)フロンティアにご協力頂き、舞台づくり、広報、タレントや出演者さんへのアプローチ、チケットング準備など行った。また、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのメンバーよりWE Dayユースアンバサダーを募り、WE Dayを子ども若者に周知、盛り上げるための事前イベントの実施、募金活動などを展開しました。



ご支援・ご協力いただいた団体・企業さま

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動へのあたたかいご支援、ご協力に、心より感謝申し上げます。
ご支援・ご協力をいただいた皆様を順不同でご紹介させていただきます。(2019年12月27日付)

助成金

日本郵便株式会社 年賀寄付配分事業金、子どもゆめ基金、公益財団法人 大阪コミュニティ財団、東京都 正規雇用等転換安定化支援助成金、東京都 キャリアアップ助成金、公益財団法人 三菱UFJ国際財団、日本労働組合総連合会 愛のかんば

寄付・協賛協力

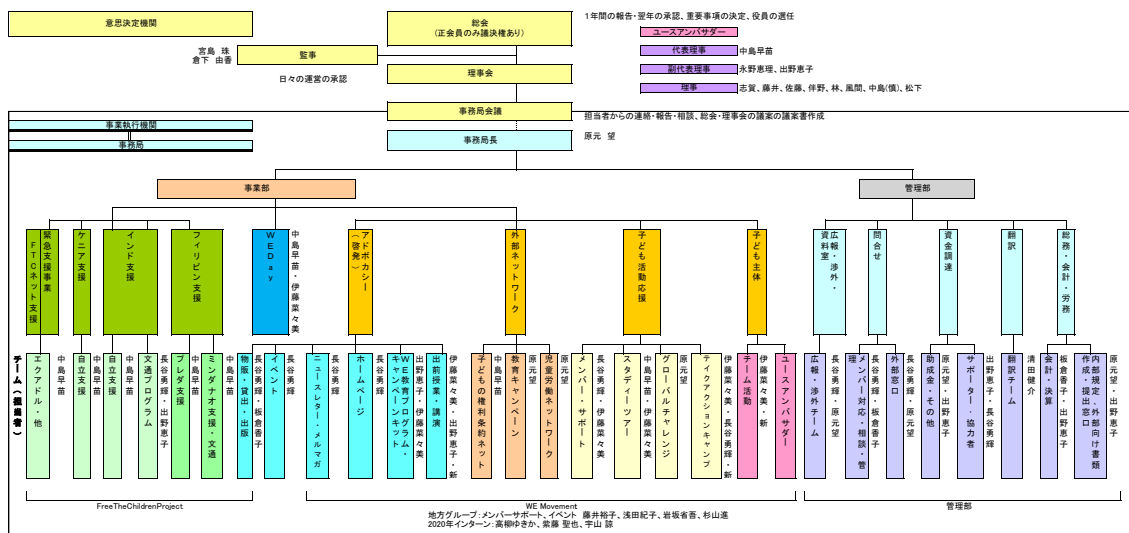
株式会社 F.O. インターナショナル、株式会社アピリオ、株式会社デンソー、グローバルリファイン株式会社、武蔵野牛乳食品
愛知県立加茂丘高等学校、橋本市立あやの台小学校、加藤学園暁秀高等学校 1年Z組、世田谷区立桜丘中学校、横浜市立大綱中学校、市川学園ユネスコスクール、明治学院高等学校、横浜市立平楽中学校、加藤学園暁秀高等学校、大宮開成中学校、横浜雙葉高等学校、駒沢学園女子高等学校、工学院大学附属高等学校、ノートルダム女学院高等学校 Fair for Smile、三輪学園高等学校、アレセイア湘南高等学校、厚木幼稚園、一般社団法人 OSAKA あかるクラブ、一般社団法人 H2O ヴァツ、日本ニカラグア友好協会、日本バプテスト厚木教会、カトリック成城教会、大阪のぞみ教会、FTCJ 熊本

活動協力 千鳥屋給本家株式会社 そのほか、個人の方々から多くのご支援をいただきました。

メディア掲載

高校英語教科書 UNICORN、高校英語教科書 English Now !、中学生公民教科書、英語教科書 ONE WORLD、JICA、フィリピン NGO ディレクター、エンカル消費副読本「浜松から未来をひらくエンカル消費」指導ガイド、朝日小学生新聞 子どもの権利条約ネットワークニュースレター、朝日小学生新聞、聖教新聞、世田谷区発行：若者応援団体リスト本、毎日小学生新聞、東京グレートサンタラン (TV21件、新聞76件、雑誌3件、WEB817件)

組織図・概要



特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
 設立年月：1999年1月1日

法人格
 2004年9月21日東京都より「NPO法人」認証
 2012年3月16日国税庁より「認定NPO法人」認証
 2017年3月13日東京都より「認定NPO法人」認証
 法人格：特定非営利活動法人

事務所所在地
 〒157-0062 東京都世田谷区南鳥山6-6-5 3F

代表者：中島早苗
 メンバー数：2,232名、正会員数：21名
 役員・顧問役員：11名(理事10名、監事1名)、
 アドバイザー2名

事務局員：専従スタッフ5名、非専従スタッフ5名
 インターン3名、事務局ボランティア5名、
 翻訳ボランティア25名

2019年度役員一覧

代表理事 中島 早苗
 副代表理事 永野 恵理
 副代表理事 出野 恵子
 理事 伴野 保志
 理事 志賀 アリカ
 理事 藤井 裕子
 理事 竹内 美紗子
 理事 風間 稜
 理事 林 大介
 理事 中島 慎治

会計監事 倉下由香

アドバイザー

堀内 光子 (ほりうち みつこ) 氏

労働問題や女性の権利の分野での研究・専門家。
 文京学院大学大学院特別招聘教授及び公益財団法人
 アジア女性交流・研究フォーラム 理事長、地球
 憲章国際審議会委員、児童労働ネットワーク代表。
 2006年よりフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの
 顧問として活動をサポート。

河合 将生 (かわい まさお) 氏

NPO・NGOの組織基盤強化やファンドレイジング、
 マネジメントのコンサルタントや、組織の協働・連
 携のコーディネート及び国際協力やキャリア育成に
 関する相談・講演を行う office musubimeの代表

TOGETHER WE WILL *change the World*

特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F

TEL : 03-6321-8948

info@ftcj.org www.ftcj.org